

年 組 () 名前

サイン

来年の干支にちなんだ動物の置物が、愛知県でたくさん作られています。

(2022年10月18日 読売新聞夕刊より)



2023 飛躍の年に

来年の干支「卯」にちなんだウサギの置物の出荷が、陶磁器の産地・愛知県瀬戸市でピークを迎えている。写真、尾賀聡撮影。

陶磁器メーカー「中外陶園」では、波の上を疾走する姿など66種類を製造。十二支の置物のうち、ウサギは「かわいい」と、二を争う人気で、海外からの求めもあるという。繁忙期は11月中旬まで続く。同社の鈴木康浩社長(38)は「コロナ禍で世の中は沈みがちだが、来年は運気がぴよんぴよんと上昇してほしい」と話した。

※先生やおうちの人のいっしょに読みましょう。

【1】写真の動物は何ですか。カタカナ3字で書きましょう。

Three empty boxes for writing the animal name in katakana.

【発展問題】干支は全部で12あり、今年の干支はトラでした。干支の名前を全部調べて、裏に書きましょう。

年 組 () 名前

サイン



◆「ご当地キャラ博」の開催を前に、滋賀県彦根市の市議会議場に24体のゆるキャラが一堂に集まりました。

彦根 ご当地キャラ聖地に

全国のゆるキャラが集まる「ご当地キャラ博2022」の開催(22～23日)を前に、会場となる彦根市で21日、市議会議場に24体のキャラクターが一堂に集まる事前イベントがあった＝写真＝。

議会を身近に感じてもらうためにキャラ博と市議会が初めて企画。キャラ博は2008年に彦根市で始まり、この日は彦根市をキャラクターの聖地とする案などを討論。様々なキャラ

ひこちゃん
議長「可決」

が「ご当地キャラは、今や全国の皆さんに笑顔を届ける必要不可欠な文化」などと賛意を示し、議長のひこちゃんの進行で原案通り可決された。

今年は22、23両日、彦根城周辺に約110体のゆるキャラが登場し、ご当地PRや物産販売を展開する。

(2022年10月22日 読売新聞滋賀版より)

【1】あなたの住んでいる都道府県や地域のゆるキャラを調べ、その名前や成り立ちなどを書きましょう。

【発展問題】あなたの学校や地域を盛り上げるゆるキャラを新たに作り、その名前と作った理由を書きましょう。裏には絵を描きましょう。

【名前】

【作った理由】

年 組 () 名前

サイン

重文に名古屋テレビ塔

文化審答申 勝興寺本堂は国宝

文化審議会は12日、浄土真宗寺院である勝興寺の本堂・大広間及び式台（富山県高岡市）を国宝に、国内初のテレビ放送用集約電波鉄塔である名古屋テレビ塔（名古屋）など9件の建造物を重要文化財にそれぞれ指定するよう、文部科学相に答申した。

勝興寺は越中（現・富山県）における浄土真宗の布教の拠点となった大寺院。1795年建立の本堂は江戸時代後期を代表する寺院本堂の一つ。17世紀中期建立の大広間や、客を迎える玄關の役割を持つ式台も近年の解体修理で詳しい構造や変遷が分かり、歴史的価値が改めて評価された。

この日の文化審議会では、古典文学の地名などで表現される伝統的な和菓子「菓銘をもつ生菓子（煉切・こなし）」、京都で発展し、日本の食文化に貢献した「京料理」の技術をそれぞれ登録無形文化財とすることも求めた。

その他の重要文化財の答申は以下の通り。

- ▽尻屋埴灯台（青森県東通村）
- ▽佐藤家住宅（秋田県大仙市）
- ▽富岡家住宅（甲府市）
- ▽外村家住宅（滋賀県東近江市）
- ▽経ヶ岬灯台（京都府京丹後市）
- ▽住吉神社（兵庫県加西市）
- ▽角長（加納家住宅）（和歌山県湯浅町）
- ▽鍋島灯台（香川県坂出市）



戦後復興の象徴

文化審議会からこの日、重要文化財指定への答申があった「名古屋テレビ塔（中部電力 MIRAI TOWER）」の写真は1954年6月に完成した。高さは178・7メートルで、当時日本一の高さの自立式鉄塔だった。テレビ塔の重文指定は初となる。

テレビ塔 初の指定

文化庁によると、名古屋の戦後復興のシンボルとなっているほか、電波塔として必要な高さの確保のために耐風の計算をし直したり、実験を行ったりして完成につなげた技術的な価値などが評価されたという。

建築家の内藤多仲（1886～1970年）が設計を担当。内藤はその後、東京タワーや通天閣の設計も手がけ、「塔博士」として知られた。

運営する名古屋テレビ塔（名古屋）の大沢和宏社長はこの日、記者会見し、「国民的財産となり、維持運用の責任が重くなるが、しっかりやっていきたい」と表情を引き締めた。

◆国や地方自治体は、価値のある建造物や美術工芸品を文化財に指定するなどして、保護しています。（2022年10月13日 読売新聞中部朝刊より）

【1】国宝、重要文化財、登録文化財の違い、さらに有形文化財と無形文化財の違いについても調べましょう。

【2】あなたの住んでいる地域に一番近い重要文化財は、どこにある何か調べましょう。

【発展問題】あなたが新たに文化財に選んでほしいと思う建造物や美術工芸品と、その推薦理由を裏に書きましょう。

かくとく みのべかずやす
◆東京五輪フェンシングで金メダルを獲得した福井県出身の見延和靖選手が、折れた剣をメダルや包丁に再利用する活動に取り組んでいます。



折れた剣で作られたメダルと表彰盾を手にする見延選手
(福井県越前市) 〓日本スポーツSDGs協会提供



折れた剣で作られたメダルや表彰盾(左下)。
奥はフェンシングの剣(福井県越前市で)



フェンシングの剣の素材は、鉄とニッケルなどの合金「マルエージング鋼」。強さとしなやかさを備え、航空機やロケットの材料にも使われる。剣は一本7000円〜4万5000円程度で、全てフランスなどから輸入。練習を重ねると早くて1か月、遅くとも半年程度で折れ、産業廃棄物として処理されるという。「一緒に戦ってきた相棒のような存在。ごみになることにずっと疑問を感じていた」
国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)にスポーツで貢献する「日本スポーツSDGs協会(東京都)の鈴木朋彦代表と親交があり、東京五輪後に相

談。SDGsの12番目「つくる責任、つかう責任」を果たそうと、協会とともに「折れ剣再生プロジェクト」を今年1月に始めた。
日本フェンシング協会の協力で各地の折れた剣を約100本回収。故郷の知人のつてをたどり、越前打刃物の材料を提供している金属加工業「武生特殊鋼材」(越前市)に加工を依頼した。河野通郎社長は「社会的に大変意義がある」と無償で協力を快諾。折れた剣から、20個のメダルと50個の表彰盾を作った。
見延選手が8月に越前市を訪れ、地元のフェンシング大会に参加した小中学生に景品として贈呈。子どもたちから「トップ選手の剣を受け継げるようであれしい」との声が出た。
23年度は折れた剣から包丁を製造し、越前市のふるさと納税の返礼品として出品を目指す。それを機に知名度を上げて一般販売し、利益を上げて取り組みの継続につなげる考えだ。
見延選手は「将来的には練習用の安価な剣の製造もできれば」と語り、「剣を大切に使う思いを次世代に伝え、競技人口も増やしたい」と意欲を燃やす。

相棒の剣メダルに再生

(2022年10月24日 読売新聞大阪夕刊より)

【1】見延選手の取り組みには、どのような願いが込められていますか。

【2】破損するなどして使えなくなったスポーツの道具を再利用する取り組みは、他の種目にも広がっています。どのような取り組みがあるか、調べましょう。

【発展問題】学校の部活動や習いごとなどで、使えなくなった道具を再利用するアイデアを考え、協力をあおぎたい企業とともに裏に書きましょう。



年 組 () 名前

サイン

Dancing for bountiful harvest



◆富山市で古くから伝わる伝統行事「おわら風の盆」が行われました。

A traditional three-day festival where people dance to pray for a plentiful harvest began in the city of Toyama on Thursday. The Owara Kaze no Bon festival is being held for the first time since 2019. The festival is known for the Machinagashi parade of dancers who are accompanied by musicians playing "Etchu Owara-bushi" on shamisen and other instruments, but the parade was canceled Thursday due to rain. Tourists were captivated by dancers on a specially made stage wearing braided straw hats hanging low over their heads and gracefully moving their hands.

(2022年9月3日 THE JAPAN NEWSより)

【1】「おわら風の盆」は何のために行われていると書いてありますか。英語で答えましょう。

【2】「おわら風の盆」はどのような格好をして、どのような振り付けで踊ると説明していますか。日本語で書きましょう。

bountiful: 豊かな、豊富な、harvest: 収穫、plentiful: 豊富な、十分な、accompany: 同行する、付き添う、due to ~: ~のため、captivate: 魅惑する、うっとりさせる、braid: 編む

©The Yomiuri Shimbum

教員、教委の
みなさまへ!

よりよく生きるために必要な「読解力」を育てる

よむYOMUワークシート

教材のご案内

小学生版

中学生版



紋別小学校 (北海道紋別市) での取り組み (2021年度)

最新ニュースを厳選したワークシート!

新聞記事をもとに作成した教材を、半年間で15回配信します。1回の配信内容は3枚(ワークシート/解答・解説/関連記事)+学習指導要領との対応表。

※小学生版または中学生版からお選びください

※難易度別シート(各3回分程度)、人気のシート(各3回分程度)もダウンロード可能です

◆配信イメージ(後期)

※登録期間中であれば、配信日以降はいつでもダウンロード可能です。カリキュラムに応じて自由にお使いください



1回あたり20円!

【標準価格】半年: 児童生徒1人あたり300円/1年: 600円

※参加人数・時期など条件により変わります。お問い合わせください

無料体験版をお試ください!

はじめての方は、無料体験版をご利用いただけます(ダウンロードできる教材: 過去のシート5枚+最新シート1枚)。1、2か月程度、シートを実際にお試しいただき、有料版への移行をご判断ください。

※無料体験のお申し込みは原則各学校1回といたします

【効果測定の方法】児童生徒の意識変化等を確認したい場合は、教材取り組み前と後に使用するアンケートをお渡しします

◀裏面もご覧ください



1回あたりの
配信例

- (1) 解答欄付きのワークシート
- (2) 解答・解説シート
- (3) 学びを深める関連記事
+学習指導要領との対応表



無料体験版を
試したい方



有料版を
お申し込みの方



よむYOMUワークシート

オススメ
1

短時間で使える 実施時間は10～15分

よむYOMUワークシートの実施時間は「15分以内」が8割、中学校のみでは「10分以内」が66%を占めました。「授業の『すきま時間』に利用できて重宝した」「教師が記事を探るところから準備するのは難しいので、助かった」「最初からルビや注釈がついているので読みやすい」との評価をいただいています。

オススメ
2

子どもの「読む姿勢」が変化 必要な語 見つけられる

教材に取り組む前後に行った意識調査では「文章を読むとき、必要な語を見つけることを意識している」という問いに対する回答が右図のように変化し、読解に必要な力が備わってきていることがわかりました。また、「教材をやってよかった」は88%、「教材は役に立つ」は91%という回答からも、児童生徒に高く評価されていることがわかります。

オススメ
3

学習指導要領に沿った内容 読むこと「精査・解釈」／学びに向かう力 育む

読むことはもちろん、「新学習指導要領」が目指す「学びに向かう力、人間性等の涵養」に役立つ教材であることも示されました。興味を持って取り組んだ児童生徒は、テストの得点が伸びています。

■ 監修者のことば

富山 哲也 十文字学園女子大教育人文学部児童教育学科教授



新しい学習指導要領が求める「読解力」は、大きく二つに分かれます。

まず、何を述べようとしているのかの大意をつかむとともに、目的に応じて必要な情報を得る力です。そしてもう一つが、「表現の仕方などに着目し、書き手がどのように、どんな意図を持って伝えようとしているのかをとらえる力」です。特にこの二つ目の力が、これからの情報化社会に必要な「力」であり、日本の子供の弱点でもあります。

二つめの力は、「なぜこの文章は『信頼できる』と判断できるのか」「この文章の論の進め方に説得力がないのは、なぜか」「どういう意見を読み手に伝えよう」と意図して編集しているのか」など、常に書き手の狙いを考えながら読み進めることが求められます。多くの情報に触れ、生活していく時に、書き手の狙いを読み解く力がないと、「だまされる側」にならなれません。情報の「善し悪し」を判断するための力とも言えます。

書き手の狙いをとらえる力があればこそ、逆に自分が書く側になった際、自分の意図をうまく表現・編集することができます。ですから「読解力」が向上すれば同時に「書く力」「伝える力」も向上するはずですよ。

二つめの力を重視した問題集はまだ数少ないのが実情です。よむYOMUワークシートはその点に着目していることが強みであり、特徴だと考えます。

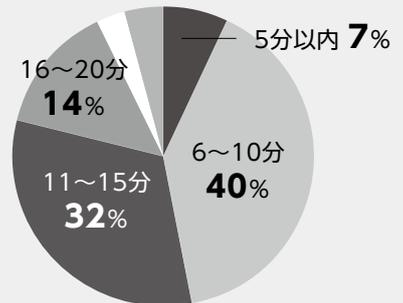
これまでに
全国200校、
約2万6000人が
取り組みました



2021年度 教員アンケートより

◆よむYOMUワークシートの実施時間

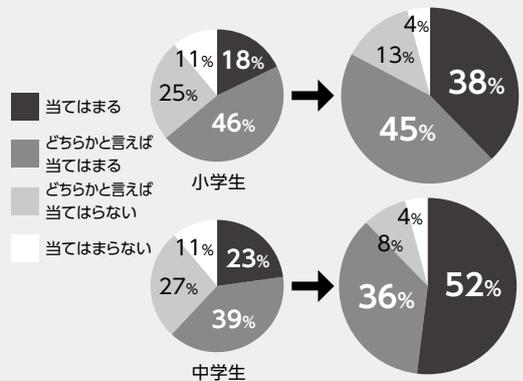
〔小中計〕



2021年度 児童生徒アンケートより

◆実施後の変化

「文章を読むとき、必要な語を見つけることを意識している」



◆児童生徒の声

- 物事をさまざまな視点から見られるようになった／視野が広がった
- 自分のことや世の中のいろいろなことを考えるようになった
- 興味がなかったものに興味をもてた
- ニュースなどについて前よりも自分はどうかなど考えるようになった
- ニュースについて家族と話すようになった
- いろいろな事を考える力がついた
- 文章を読むことの大切さに気づいた
- 人に伝える言い方がうまくなった
- 文章の構成を考えるようになった／文をまとめられるようになった
- 文章を読むようになった／読むのが楽しくなった

読解力を育てる「よむYOMUワークシート」をぜひご利用ください

【お問い合わせ】 読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局

〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 ☎03-3217-1967

Fax: 03-3217-1968 Mail: ednet@yomiuri.com Web: kyoiku.yomiuri.co.jp